

平成

令和

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024

令和5年(2023年) 2月号:小本川流木捕捉施設完成 ▲



美しい 県土づくりNEWS

目次

- ◆ 2 小本川河川災害復旧助成事業
流木捕捉工施設が完成しました!!
- ◆ 4 赤鹿橋の「渡り初め式」を開催しました!!
～台風第10号からの復興～
- ◆ 7 除雪オペレーター育成に向けた除雪訓練を実施しました!
- ◆ 8 令和4年度の高校生との協働による橋梁点検を実施しました!!
- ◆ 13 令和4年度(第47回)土木技術研究等発表会
～半世紀にわたる歴史を誇る発表会を2年ぶりに開催～

2023年

2月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第222号
令和5年3月3日発行
編集 県土整備企画室

三陸復興

二級河川小本川筋河川災害復旧助成事業(浅内工区) 流木捕捉工施設が1月に完成!!



平成

令和

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024

令和5年(2023年) 2月号:小本川流木捕捉施設完成 ▲

小本川河川災害復旧助成事業
流木捕捉工施設が完成しました！！

沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター

流木捕捉工施設について

二級河川小本川における平成28年8月の台風第10号災害では、上流から流出した大量の流木が橋梁部に堆積して流れが阻害され溢れた洪水により浸水被害が拡大しました。

このことから、下流に流下する流木を捕捉し、被害を軽減する目的で、流木捕捉工施設の整備を令和2年3月から進め、令和5年1月で完成しました。

- ・事業費 785百万円
- ・掘削工 87,590m³
- ・ブロック積工 3,715m²、大型ブロック積工 494m²
- ・鋼製スリット 開口幅80m（縦50m+横30m）スリットの間隔3m

完成写真(令和5年1月20日時点)



平成

令和

16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6
2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024

令和5年(2023年)2月号:小本川流木捕捉施設完成 ▲

流木捕捉工施設は、捕捉池と通常時の河道を仕切るために流木流入口を設けた囲繞（いりょう）堤を設置し、洪水時に流木と洪水流を流入口から捕捉池に導流し、施設の下流端に設ける鋼製スリットで流木を捕捉する構造です。

本施設が完成したことにより、今後の大雨による流木の流出に伴う被害の軽減が期待されます。

流木被害の状況について

小本川流域は平成 28 年 8 月に発生した台風第 10 号災害により甚大な被害を受けました。台風第 10 号による出水被害における特徴として、洪水による河岸の側方浸食のほか、山腹土砂崩壊等により流出した流木が橋梁へ堆積したことに伴い、橋梁の流出、橋梁周辺の護岸の決壊のほか水位の堰上げによる氾濫被害により、浸水被害の拡大をもたらしました。

また、氾濫流とともに流木が家屋及び橋梁高欄等へ流出、貫入するなどして被害を拡大させたほか、流木撤去に相当の労力を要するなどし、早期応急復旧に対し大きな支障を及ぼしました。

流木捕捉工施設は台風第 10 号の被害状況を鑑み、山間地での河道屈曲部に捕捉池を設置することで流木に作用する遠心力を利用して流木捕捉を行い、下流部における流木被害の軽減を図るものです。

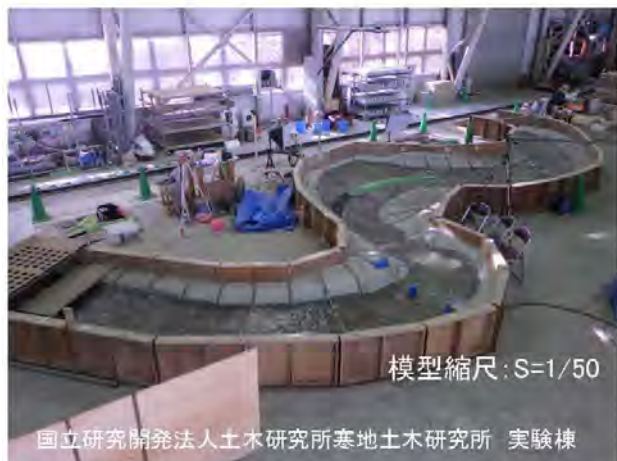


橋梁の流木被害状況(田中橋)



支障となる流木堆積(乙茂地区)

流木捕捉工施設は事例が少ないこと及び設計基準が定まっていないことから、流木を効果的に捕捉池に取り込めるよう、水理模型実験により検証を行い、どの形状が現地に一番合っているかを確認し、設計に反映させました。



模型縮尺:S=1/50

国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所 実験棟

水理模型実験全景



鋼製スリット

実験後の捕捉写真